



れんげそう

令和6年9月30日
福生第五小学校
学校通信第566号

心をつなぐ自助・共助

校長 泉田 巧人

9月17日(火)、18日(水)の2日間、5年生と名栗自然教室に行ってきました。帰りに大雨が降りましたが、「ドラム缶ピザ作り」「プラネタリウム」「森の生き物探し」「サーチライトハイク」「ヒノキのバードコール作り」「カレーライス作り」等、全ての行程を滞りなく実施することができました。児童一人一人が、共同生活を送る上で、協力や規律、自立を意識してめあてを立て、それを達成することを目標に活動に取り組みました。

一日目は、「ドラム缶ピザ作り」から始まりました。班に分かれ、食材を前に子どもたちは役割を決め、言葉を掛け合いながら協力して作業を進めていました。生地を薄く延ばして、とても大きな土台をつくる班、少し厚めにし、パンのような土台にする班等、各班で個性的なピザが出来上がりました。みんなで作ったピザの味は格別だったと思います。「森の生き物探し」や「ナイトハイク」では、班のみんなで一つ一つチェックポイントを確認し、協力し合い進めている姿がありました。ナイトハイクでは、名栗げんきプラザの屋上からみる「中秋の名月」はとてもきれいで、子どもたちの心に残ったことと思います。

二日目には、カレーライス作りを行いました。ここでも班の友達と協力し合い進めていました。子どもたちは、火をおこすのに悪戦苦闘することもありましたが、出来上がったカレーライスに「本当においしい」などと言いながら食べていました。二日間の生活場面では、自分のやるべきことを考えながらも、困っている友達がいたら自然に言葉を掛け助け合う姿が見られていました。



中秋の名月(名栗自然教室にて)

さて、21日、22日に、元台風14号の温帯低気圧の影響で、石川県の能登地方を記録的な豪雨が襲い、甚大な被害をもたらしました。能登地方は、今年の1月1日に最大震度7の大地震が襲ったことは記憶に新しいと思います。短期間に地震災害と風水害が起こると誰が予測できたでしょうか。テレビの報道を観ていると、この短期間に二度も被災した人たちの悲痛な叫びがありました。一方で、ボランティアの方々が復興に向け、被災した家の片付けなどを手伝う姿もありました。何かをしてあげているという気持ちではなく、自分の事として捉え、自分のできることを考え動いている「共助」の姿に、心と心がつながっているように感じました。被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

本校は令和4・5年度と東京都教育委員会の「安全教育推進校」に指定され、地域の実情も踏まえ、災害安全を中心に、いつ起きるか分からない自然災害について学ぶとともに、「自助」「共助」についても学んできました。今過ごしている日常が当たり前でない時が来るかもしれません。五小の子どもたち一人一人が一日一日を大切に過ごして行くことが必要だと思います。日常から、「自分を大切にし、自分自身を守ることが出来る。」「困っている人がいれば温かい手を差し伸べ助けることができる。」など、心のつながりを大切にした「自助」「共助」の精神で、何気ない「やさしさ」にあふれた生活ができるよう、教職員一同、指導を行ってまいります。御家庭でも子どもたちの「やさしさ」のお手本となるよう、御協力をお願い申し上げます。